



世界にはばたけ！ ～グローバル人材の育成に向けた取り組み～

熊本県商工観光労働部観光経済交流局国際課

熊本県では、海外に挑戦しようとする若者を後押しし、自らの手で切り開くことができるグローバルな人材の育成を積極的に行っています。

海外を舞台に活躍できる人材を育成し、世界とつながり発展する熊本づくりを目指して実施している取り組みの一部をご紹介します。

熊本県世界チャレンジ支援基金を活用した取り組み

2013年度に官民出資による「熊本県世界チャレンジ支援基金」を創設しました。行政だけでなく企業やNPOなどが一体となり、社会全体で熊本の未来を担う人材育成を行うことを目的としています。

この基金を活用して、世界にチャレンジする若者を応援しようとさまざまな事業を展開しています。

熊本県の基幹産業を担うグローバル人材の育成 ～専門高校生による海外インターンシップ事業～

国際的な感覚と広い視野を持ち、将来は本県産業界の発展に寄与するグローバル人材を育成することを目的に、専門高校生に、県内企業等の海外進出先でのインターンシップ、企業視察、現地高校生等との交流活動等を体験させる事業を実施しています。2016年は工業、2017年は家庭と福祉、2018年は農業と水産、今年は商業を学ぶ生徒14人をアメリカのニューヨークおよびロサンゼルスへ派遣しました。

本県から進出している2社を視察し、派遣生徒は、現地の社長から海外進出の経緯や現地のニーズに合わせた経営について学びました。

さらに派遣生徒は、現地高校生との交流を通じ、コミュニケーション力の必要性を実感したほか、流通関係の企業視察、国際的な機関の訪問などを通じ、日本とアメリカのビジネスの違い等を理解し、グローバルな意識を持つことの必要性を感じました。

アメリカ文化の理解を通して語学力アップ ～熊本県州立モンタナ大学高校生派遣事業～

夏休み期間の約2週間、県内高校生24人が州立モンタナ大学で集中的な語学研修を受講しています。各自が設定したテーマについて現地で調べ、ポスターやパソコンによるプレゼンテーションを行う授業もあります。

期間中は大学寮に滞在し、現地のイベントへの参加を通じて学生や地域の人々との交流を積極的に図り、アメリカ文化を存分に堪能しています。週末にはグレイシャー国立公園での宿泊研修を行い、雄大な自然の中をトレッキングする機会もあります。

渡米の前夜で受験するTOEFL Juniorのスコアが向上することに加え、長期海外留学や海外大学進学への意欲が高まるなど、さまざまな成果が出ています。



州立モンタナ大学のキャンパス風景

世界に挑戦する若手芸術家のスキルアップを支援 ～くまもと若手芸術家海外チャレンジ事業～

海外での実践的な研修等に従事する機会を提供し、若者の海外チャレンジ意欲の向上を図るとともに本県の将来の文化芸術の振興を担う人材を育成することを目的に、芸術家を目指す学生や若手芸術家の海外渡航費と研修参加費を支援する取り組みを行っています。

今年度は、ピアノ、フルート、ヴァイオリン、声楽、美術、クラシックバレエ、コンテンポラリーダンスの分野から10人の若手芸術家を採択しました。

過去の採択者の中には、海外の芸術学校のオーディションに合格し入学を決める者や、海外のツアーに独奏者として参加し演奏活動を行う者が出るなど、着実に次のステップにつながっています。

「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成事業

～「熊本版」官民協働海外留学支援事業～

(独)日本学生支援機構の制度「トビタテ!留学JAPAN」を利用して、大学生等の海外留学を支援し、将来の熊本に貢献するグローバル人材の育成に取り組んでいます。

この事業は2015年度に開始し、この5年間で32人の大学生等をアメリカ、中国、香港、イギリス、フランス、オーストラリアなど世界各国に派遣しています。

特徴は大きく2つあります。1つは、語学を学ぶだけでなく、例えば県産品の販路拡大やインバウンド客増加などのテーマを学生自らが設定して、海外や県内企業での就業体験などの活動を行うことです。

2つ目は、手厚い支援があることです。留学中の生活費などを賄う奨学金、渡航費、授業料について、県内企業からの寄附金と(独)日本学生支援機構の交付金を活用して支援しています。

多くの若者が海外での活動を通じて成長し、世界を相手に活躍することを期待しています。



派遣留学生壮行会および事後報告会の様子

初めての海外を応援!

～若者のアウトバウンド推進助成事業～

2019年から、県内の高校生や大学生等を対象としたパスポート助成事業を実施しています。パスポートを初



募集チラシ

めて取得し海外渡航した場合、一定額を助成することで、初めての海外への一歩を踏み出してもらうことを目的としています。これまでに341人(2019年12月末時点)の方から申請がありました。利用者からは、「もっと語学を学び今度は違う国に行きたい」、「今後の

就職先として海外も視野に入れたかった」と等の感想が寄せられました。また、県内の高等学校が新たに海外への修学旅行を企画・検討する際の事前調査に係る助成も行っています。この助成を活用した高校からは、「安心安全で、かつ生徒の学びにつながる修学旅行とするためには、事前視察調査は不可欠。このように費用面の助成があるのは大変助かります」とのコメントがありました。当該高校は来年度海外への修学旅行を実施する予定です。

国際スポーツに絡めた交流体験

2019年は、県内施設を会場に「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」と「2019女子ハンドボール世界選手権大会」の開催されたスポーツイヤーでした。

県・熊本市・八代市・山鹿市で構成される「熊本国際スポーツ大会推進事務局」では、国際大会の開催やキャンプ地誘致活動による成果を次の世代につなぐために2016年に「くまもとハロープログラム」を作成し、4つの方向性を決めました。その方向性に沿った取り組みとして、まず、ラグビーにおいて、本県で公認キャンプを実施したフランス・トンガ・ウェールズ・ウクライナの4つの国・地域の中で、フランスやウェールズ代表チームの選手が県内の小中学校を訪問し、スポーツを通じた体験交流を行いました。他にも、4つの国・地域の大使館関係者が県内の小中学校・高等学校等を訪問し、交流授業を実施しました。

また、女子ハンドボールにおいても、県内で事前キャンプを行ったオランダ・スロベニア・モンテネグロ・キューバに加え、大会期間中においても、スウェーデンなど6か国のチームが学校を訪問し交流を行い、各国・地域を理解し関心を持つ良い機会となりました。

今回の交流をきっかけに、交流を継続する動きも出ています。



トンガの駐日特命全権大使(当時)による交流授業の様子